

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区：旭川地区
- 2 事例報告学校名：旭川市立旭川第一小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 菅野 聖一
- 4 キーワード：地域の教育資源を活かした
豊かな体験・学校間交流



1 はじめに

旭川第一小学校は、明治32年（1899年）に菊田熊之助を団体長として入植した福島団体の師弟の簡易教育所として開校され、今年で121年の歴史と伝統がある。地理的には、旭川市中心部より東方20.5kmに位置し、田園地帯が広がる地域で、学校の歴史と同様に地域としての歴史も古い。最も児童数が多かったのは大正10年の393名である。現在の児童数は5名で、1年生単式学級、4・6年生複式学級と特別支援学級の計3学級で教育活動を推進している。

校庭には、市の指定文化財である樹齢100年を越える白梅の木があり、北限地域に生息する標本的な価値のみならず、地域・学校にとってかけがえのないシンボルでもある。このような長い歴史と伝統ある本校は、地域の教育資源を生かした活動が多く、時代と共に多様な教育活動を計画し、取組を進め、保護者や地域の方々の学校への信頼は厚い。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、学校行事や諸活動を中止したり、規模縮小したりするなど、感染症対策を十分講じた中での教育活動となっている。

ここでは、小規模校の特性及び本校ならではの地域の教育資源を生かした、豊かな体験・交流活動の実践を紹介する。

2 地域の教育資源を生かした豊かな体験

(1) 梅祭り

学校グラウンド横にある梅の木を囲んで、地域の方に梅の木が植えられた頃の学校の様子をお話していただくことで、地域を支えてきたお年寄りに感謝の気持ちをもたせる活動となっている。今年度の行事は中止となったが、例年、5月の連休明けに生活科・総合的な学習の時間に位置付けて実施している。

(2) 学校園・教材園

① 田植え体験

今年度は教職員のみでの田植えとなったが、本校男子用務員（地域在住）指導のもと、現在では全て機械化されている田植えを、素足で水田に入り、昔どおりに苗を一本ずつ手で植える活動を体験している。

② 稲刈り体験

男子用務員指導のもと、稲刈り用の鎌を使って、一株ずつ手作業で刈っていく体験をし、約4か月の稲の成長ぶりを実感させている。

③ 収穫祭

田植え・稲刈り体験のみならず学校園・教材園も、男子用務員に手伝ってもらい、栽培活動を行っている。今年度の開催は中止となったが、多くの農産物を囲み、保護者や地域の方々と共に、11月の地域参観日で収穫祭を行っている。



稲刈り



収穫祭での発表

(3) 地域の文化財を生かした学習

地域には歴史のあるお寺や市の指定文化財となる養蚕民家がある。生活科・社会科や総合的な学習の時間の指導計画に基づき訪問し、その歴史を学んでいる。



小4 見性寺訪問



小4 養蚕民家訪問

(4) 旭山動物園・東旭川兵村記念館・旭川市博物館での学習

生活科・社会科・図画工作科の学習で、各学年・各教科横断的な教育課程を配置し、学習のめあてに添った学習活動を全校で実施している。



旭山動物園 (小1)



兵村記念館訪問 (小6)

(5) 一日防災学校の実施

平成30年秋、校区にあるペーパン川が氾濫し、本校が避難所となった。そんな教訓を生かし、児童・保護者・市民委員会・市防災安全部・市消防団他、地域の住民も参加し、北海道の指定をいただき、防災マスターを派遣しての講話や演習を通して、児童が友達・家族や地域の方々と協力し、災害から自分や家族、地域の方々の身を守る学習している。

3 学校間交流

(1) 小中連携・一貫教育の推進と一体型学校運営協議会との連携

平成31年、旭川小学校・旭川中学校、そして本校との3校で「一体型あさひやま学校運営協議会」が設立された。旭川中学校・旭川小学校とは交流学习、また、旭川複式連盟事業としての旭川第五小学校との集合学習と市複式5校による合同宿泊研修も実施している。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、年3回実施している学校運営協議会の2回は紙面会議となっている。東旭川の伝統を生かし、「子どもたちの9年間で目指す姿～学び・心・体～」をスローガンに学校・家庭・地域が連携し、共に学び、共に育てる取組を行っている。旭川市の中でも先進的にコミュニティ・スクールの活動を行っている地域である。



あさひやま学校運営協議会



旭川小との交流学习

4 おわりに

歴史と伝統のある本校において、このような豊かな体験ができるのは、やはり近隣校や地域施設及び多くの方々の温かい支えがあってこそである。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を最大限施しながら、刻々と激変する社会において、未来の創り手となる子どもたちに必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、コミュニティとしての学校教育をめざし、今後も取り組んでいきたい。